

個人山行

北ア：上高地ーババ平

◆日程 2021年9月19日(日)~20日(月)

◆メンバー L：MD、KH

9/19(日)飛騨地方高山市で、震度4を記録する地震が発生しました(槍ヶ岳山荘では震度5弱を観測)。自身の山行中、この地震に遭遇したので、その報告をいたします。

9月19日(日) 天候：晴れ

19日の早朝、上高地に入った。好天が予想されるシルバーウィークのせいか、上高地は早朝にも関わらず観光客や登山者で賑わっていた。

この日はババ平にテントを張り、翌日に大天井岳で一泊、3日目に燕岳に登り中房温泉に下山する計画であった。台風一過の好天が続く予報で、素晴らしい景色が見られることを期待していた。

徳沢や横尾でのんびりと休憩を取りながら昼過ぎにババ平に着いた。四方を切り立った山々に囲まれたこのテント場は決して広くなく、既に多くのテントが張られていたが、良い場所にそれぞれ張ることができた。雲一つない青空が広がり、日陰が乏しいテント場で何とか日除けを探し、陽が隠れるのを待った。17時前に早めの夕食を取り、のんびりと寛いでいた頃に地震は起こった。

私はトイレにいたのだが、突然のドンという爆音と突き上げるような振動に、一瞬何が起きたのか分からなかった。続く横揺れで地震だということを知った。外に出ると、皆テントから出て騒然としていた。左右の山々から落石が発生し、砂煙を上げていた。登山者は皆その様子を不安そうに見ていた。その後も余震が続き、その度に落石と轟音が起こった。近くに山小屋も無く、電波が繋がりにくいこの場所では情報が得られず、皆パニックになっているようだった。私も恐怖で震えが止まらなかった。

一人の女性が槍沢ロッジに電話をかけ、状況確認をしていた。その女性によると、今のところ警察から避難指示等は出ていない、落石の起こりやすい場所なので、避難するなら河原の中ほどにテントを張るのが良いということだった。我々は河原の方を見に行っただが、大きな岩がゴロゴロしていて、そばに山の斜面が迫っており、安全とは思えず、とても移る気にならなかった。移動した人はほとんどいなかった。ただし我々の張った場所も、もし大きな岩の塊が降ってきたら、直撃の可能性もあったため、堅牢そうな旧山小屋の脇のスペースに慌てて張り直した。暗い中、下山した人たちもいた。その後10回以上の余震があり、暗闇に落石の不気味な音が鳴り響いていた。タイムリーな情報が得られない中、登山道の状況が分からず、余震の可能性もあることから、翌朝上高地に下山することを決断した。

CT：上高地 6:30 - 徳沢 8:10/8:40 - 横尾 9:30 - 槍沢ロッジ-11:30/12:30
- ババ平 13:10

9月20日(月) 天候：晴れ

一夜明け、ゆっくりと下山の準備を始めた。好天が憎らしい。朝の3時から大声で喧嘩していた隣の迷惑夫婦は、夜明け前に槍ヶ岳にアタックに行ったようだ。

下山途中、地震があったにも関わらず、槍を目指して登ってくる登山者が後をたたなかった。中にはツアーと見られる10名以上の団体も2組ほどいた。そんな彼らを見ていると本当は行けたのではないかと、下山して良かったのかと後悔が入り混じった複雑な気持ちになった。

山行中に地震に遭遇した場合、どうすればよいのか。山中では情報が得にくく、逃げ場も無く対応が難しい。できることはと考えると、事前に噴火のレベルや地震が最近起こっていないか等、情報収集を十分に行うこと。そして山ではリスクが伴うことを考え、常に冷静な判断ができるようにすることか。我々の下山は間違っていなかったと思いたい。

CT：ババ平 6:00 - 横尾 8:00/9:00 - 徳沢-10:00 - 上高地 11:40

(記：MD)



地震前のテント場の様子。右の水色が自身のテント。
地震のあと、左の石造りの旧小屋の裏にテントを移動した。



テント場は切り立った山に囲まれていて、複数個所で落石が発生していた。